「中村のこうぼう狸」

鴨部中村のお話

鴨部中村の嶋御門神社には3匹のたぬきの話が今も残っています。今より百年くらい昔、中村下谷の嶋御門神社の裏側に大人三人が手を伸ばして、やっと届くほどの古い大松がありました。その大松に昔から住み着いている大狸が3匹おりました。その大松は古くなって枯れてしまい、今はなくなっています。

狸は住むところがなくなったので、村の端にある石垣に住みつきました。この狸はずるがしこくて、時々村に出てきては、村人や牛馬に化けては、人を騙したり、石を投げたりして、人を驚かせていました。

ある日のこと、吉松さんが橋の上から石を投げたら、運悪く狸の頭にあたってしまいました。狸はカンカンに怒って吉松さんに取り付きました。近所の村人は、これは大変だとみんなで力を合わせてお宮を建てて、その狸をお宮に封じ込みました。

Copyright © 海のまち朗読館 All Rights Reserved

それからというものは、狸(たぬき)はまじめになり、そのお宮も栄(さかえ)えて村人のいろいろの願い事(ねがいごと)や頼(たのみ)みごと、いぼ落(お)としなど、何でも願(ねがえ)ば叶(かなえ)えてくれる立派(りっぱ)なお社(やしろ)になりました

今では百日(ひゃくにち)のお願(おがん)をかけてお参(まいり)りする人も少なくありません。「中村下谷(しもだに)のこうぼうさん」ともいわれています。

Copyright © 海のまち朗読館 All Rights Reserved